

平成30年度第1回東海村（仮称）歴史と未来の交流館展示監修委員会 会議録

1. 日 時	平成30年4月25日（水）13:00～15:00
2. 場 所	東海村役場議会棟203委員会室
3. 出席者	高橋修委員長，塩谷修副委員長，安嶋隆委員，益子美由希委員，菊池芳文委員，高橋裕文委員，佐々木啓委員，萩谷信輝委員，林圭史委員，宮田裕紀枝委員，小野寺淳委員，宮内教男委員
4. 欠席者	瓦吹堅委員
5. 議 題	(1) スケジュールについて (2) 展示室及び関連諸室の平面図について (3) 展示構成案とゾーニング案について (4) 今後の進め方について

主な発言内容

(1) スケジュールについて

- ・ 展示工事期間が2年となっているのは，建物の枯らし期間をとることに有効である。
- ・ 建設してすぐは水分だけでなくアルカリの問題もあり、基本的には夏を超えるとよいと言われる。展示物にも考慮が必要。文化庁に指導を受けに行くといよい。
- ・ 調査をやりながら展示設計を考えた方がよい。

(2) 展示室および関連諸室の平面図について

- ・ 資料の洗浄場所は，様々なものを洗えるような仕様にした方がよい。
- ・ 東海村の生業として特筆できるほしいものに関連することが広場でできるか検討しては。
- ・ 自然系は歴史系と比べるとスペースが狭いが，一方で自然は現地を見に行くという考えでいる。しかし情報を集める場は必要。生物多様性地域戦略でうたわれている拠点的施設とも感じる。
- ・ データでの資料管理は歴史系でも必要。
- ・ 自然系の独立した収蔵庫があることは画期的。

(3) 展示構成案とゾーニング案について

- ・ 基本展示室1には実物資料は置かず，基本展示室2で実物資料を展示するということで了解。
- ・ 自然系は基本展示室1になるが，触れない方がよい資料もあるので考慮してほしい。
- ・ 燻蒸は全館燻蒸ではなく一時収蔵庫で行うこと，資料の閲覧は，申請の上資料調査室で行うことで了解。

(4) 今後の進め方について

- ・ 次回会議は6月27日を予定。
- ・ 各担当分野について個別に事務局で相談に伺う。
- ・ 「風土の上に成り立つ歴史」を表現するために，歴史系の先生方と自然の先生方が一緒に議論できる小規模な会議があるとよい。